

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄				
			評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質						全体
Q1 室内環境						
1	音環境		-	-	-	-
	1.1 室内騒音レベル	-	-	-	-	
	1.2 遮音		-	-	-	
	1 開口部遮音性能	-	-	-	-	
	2 界壁遮音性能	-	-	-	-	
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	
	1.3 吸音	-	-	-	-	
2	温熱環境		-	-	-	-
	2.1 室温制御		-	-	-	
	1 室温	-	-	-	-	
	2 外皮性能	-	-	-	-	
	3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	
	2.2 湿度制御	-	-	-	-	
	2.3 空調方式	-	-	-	-	
3	光・視環境		-	-	-	-
	3.1 昼光利用		-	-	-	
	1 昼光率	-	-	-	-	
	2 方位別開口	-	-	-	-	
	3 昼光利用設備	-	-	-	-	
	3.2 グレア対策		-	-	-	
	1 昼光制御	-	-	-	-	
	3.3 照度	-	-	-	-	
	3.4 照明制御	-	-	-	-	
4	空気質環境		-	-	-	-
	4.1 発生源対策		-	-	-	
	1 化学汚染物質	-	-	-	-	
	4.2 換気		-	-	-	
	1 換気量	-	-	-	-	
	2 自然換気性能	-	-	-	-	
	3 取り入れ外気への配慮	-	-	-	-	
	4.3 運用管理		-	-	-	
	1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	
	2 喫煙の制御	-	-	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.43	-	3.7
1	機能性		-	-	-	-
	1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	
	1 広さ・収納性	-	-	-	-	
	2 高度情報通信設備対応	-	-	-	-	
	3 バリアフリー計画	-	-	-	-	
	1.2 心理性・快適性		-	-	-	
	1 広さ感・景観	-	-	-	-	
	2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	
	3 内装計画	-	-	-	-	
	1.3 維持管理		-	-	-	
	1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	
	2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	
2	耐用性・信頼性		3.1	0.50	-	3.1
	2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	
	2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	
	2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	
	1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	
	2 外壁仕上り材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	
	3 主要内装仕上り材の更新必要間隔	工場:床コンクリート浸透性表面硬化剤、壁(外壁の裏面)金属断熱サンドイッチパネル表し、天井(屋根二重折版の裏面)断熱二重折版表し	5.0	0.10	-	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	汚水排水VP(B)、雑排水管VP(B)、給水VLP(B)、Eは不使用	5.0	0.20	-	
	6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	
	2.4 信頼性		3.0	0.20	-	
	1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	
	2 給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	
	3 電気設備	-	3.0	0.20	-	
	4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	
	5 通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	

3	対応性・更新性			4.3	0.50	-	-	4.3
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	[壁長さ比率]<0.1	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		4500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	ケーブルラック、EPSIにより構造部材及び仕上材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	ケーブルラック、EPSIにより構造部材及び仕上材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.57	-	-	2.5
1	生物環境の保全と創出		—	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.75	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		—	2.6	0.50	-	-	2.6
	集合住宅以外の評価			2.6	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
	集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.0
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	自動水栓・節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60	-	-	2.9
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材のデティールを採用、OAフロアを採用	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材を使用している	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=85%	3.6	0.33	-	-	3.6
2	地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1	大気汚染防止	燃焼機器の使用なし	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	污水处理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」チェックリストの過半を満たし、「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	－	－	－	－	－						
2.4.3 電気設備	1.0	－	－	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	－	○	－	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		－	－	2.0	－	1.0	1.0	－	－	－	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	－	－	－	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		－	－	－	－	－	1.0	1.0	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0		－	1.0	－	1.0	1.0	－	－	－	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	1.0		－	－	1.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	－	○	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	－	3.0	3.0	－	－	－	1.0	－	－			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		－	－	－	1.0	1.0	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		－	1.0	1.0	1.0		－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	－	窓の日射熱取得率(η)	－
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	－
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	－
屋光率	0.0%	η AC	－
自然換気有効開口面積率	0.0%	η AH	－

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	－ 年					
想定必要間隔	40 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	6.35 m					
壁長さ比率	4.0%					
床荷重	20000 N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	27%	建物緑化指数	0%
空地率	40%	水平投影面積率	0%
地表面対策面積率	11%	舗装面積率	29%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.75	断熱等性能等級	対象外 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%
		採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%
		通風を満たす住戸数	0.0%
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kW
BEI/BEI _m	再エネ有 0.66	無 0.66	オフサイト再エネ有 0.30
一次エネ削減率	再エネ有	無	－

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%
特定調達品目	－
エコマーク商品	－
自治体指定の特定品目等	－
使用比率	0.0%
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
オゾン層破壊係数(ODP)	0 地球温暖化係数(GWP)
7	
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	14%	隣棟間隔指標R _w	2.59
地表面対策面積率	11.0%	屋根面対策面積率	0.0%
外壁面対策面積率	0.0%		
見付面積S _b	1.187㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	168.31 m
基準高さH _b	51.88 m		
緑地	2,174㎡	水面	㎡
保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
再帰性反射対策面	㎡		